

令和7年度 評価計画及び自己評価

(計画・**中間**・最終)

両城中学校区 校番 20 学校名 呉市立港町小学校

a 学校教育目標		① 心豊かに 自立する	b 経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉(学校の使命) 集団の中で確かな学力を身に付けさせ社会性を育成する 〈ビジョン〉(将来の学校像) 「学ぶなら、通わせるなら、働くなら、港町小学校で」と思える学校を目指す									
c 中期経営目標を踏 まえた現状(進捗状況) と今年度の重点		本校では、基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成に重点を置き、中学校区の「二川授業スタイル」に基づく授業改善に取り組んできた。その結果、緩やかながらも学力の向上が見られる。しかし、自分の考えを文章や言葉で表現する力の面で、なお課題が残っている。 また、自他を大切に、共に成長し合う児童の育成を目指して、児童主体の異学年活動を推進してきた。この活動により、自己肯定感を高めるとともに、互いの長所を認め合う機会を継続的に設けている。 今後も、自他を尊重する安全安心な学級風土づくりを進めるとともに、基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成に重点を置きながら、さらなる教育の充実に努める。											
育成を目指す資質・能力		○知識・技能 ○思考力・判断力・表現力 ○主体性											
評価計画(中期経営目標を設定してから①・2・3年目)										自己評価			
重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	9月			2月				
						i 達成 値	j 達成 度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価		
*** 確 かな 学 力 の 向 上	① 学 力 の 向 上	基礎・基本の徹底	・特別支援教育の視点を取り入れた「分かる・できる」授業づくりを行う。 ・帯タイムに設定したスキルタイムで、基礎・基本的な読解力や計算力を身に付けさせる。	国語科・算数科市販テスト「知識・技能」平均点	85%	83%	98	B					
		思考力・判断力・表現力の向上	・国語科では、文章との対話、友達との対話を通して、自分の考えを広げ、深めていく。 ・算数科では、筋道を立てて考え、数学的な表現を用いて説明させる。	国語科・算数科市販テスト「思考力・判断力・表現力」平均点	80%	78%	98	B					
** 豊 かな 心 の 育 成	① 自 尊 感 情 の 向 上	自他を大切に認め合う児童の育成【いじめの防止】	・異学年活動を行い、縦のつながりを充実させることで、他者を思いやる態度を育て、安心して学校に来ることができるようにする。	「学校に行くのは楽しいですか。」 児童アンケート	85%	96%	113	A					
			・いじめについて直接考え、議論できる道徳の授業の充実を図る。 ・児童中心にいじめを撲滅するための活動を行うことで、いじめを許さない風土をつくる。	「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。」 児童アンケート	100%	100%	100	A					
		主体的に行動できる児童の育成	・学校行事や異学年活動において、仲間と共に主体的に取り組める場を設定する中で、めあてをしっかりとたせて取り組ませる。	「めあてに向かって行動することができましたか。」 児童アンケート	85%	97%	114	A					
★ 健 や かな 体 の 育 成	① 生 き る 力 の 向 上	体力の向上	・単元や時間割の配置の工夫による体育の授業での運動時間の確保により、児童が主体的に取り組む体育授業を行う。 ・仲間と豊かに関わり合いながら、運動の楽しさを味わわせる。	「運動やスポーツをすることは好きですか。」 児童アンケート	80%	89%	111	A					
			・規則正しい生活習慣を身に付けるために保護者に啓発しながら、学期に1回生活リズムばっちり週間を実施する。	早寝・早起き・朝ご飯・排便の項目	70%	67%	96	B					
		「自分の命は自分で守る」力の育成	・呉市防災教育のための手引きを参考に、各学級年に1回防災に関する授業を実施する。 ・災害リスクごとの避難訓練における発達段階に応じた、事前事後指導を徹底する。 ・「土砂災害対応携帯マニュアル」「地震津波災害対応携帯マニュアル」を活用した家庭や地域と連携した防災教育の充実を図る。	自分が住む地域に起こりやすい災害について理解している児童の割合 災害時に避難する場所や避難の仕方について理解している児童の割合 児童アンケート	95%	98%	103	A					
業務改善	教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	児童と向き合う時間の確保	・デジタルボードで、周知事項や提出物を伝えることで、「会議の内容精選」を図り、児童と向き合う時間を確保する。 ・会議の開始時刻、終了時刻を守ること で長時間勤務の削減を図る。	児童と向き合う時間を確保されていると感じている教職員の割合	90%	93%	104	A					
		長時間勤務の削減		在校時間外勤務が45時間未満の教職員の割合	100%	33%	33	D					

【k: 評価】
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60